

2025年度 実践活動成果報告書

所属機関名	井原市立県主小学校
申請者氏名	小田 真一
分担者氏名	竹井京子、石田和志
活動テーマ	学校・家庭・地域が当事者意識をもって推進する『あがタウン子育て』



あがたん夢広場に、新たに現れるようになったトンボや鳥を観察する様子



あがたん夢広場を活用した防災会の様子



中学生と高学年児童がリーダーとなって開催した点灯式（あがた未来プロジェクト）



中学生4人が発表する様子（まち&ひとづくりフェスタ）

【活動の概要】

『あがタウン子育て』とは、県主（あがたぬし）小学校区の学校・家庭・地域（以下三者）の大人が協働し、町ぐるみで子供の育ちを支援するということを意味する。そして、目指すは、子供たちの「未来社会を生き抜く力」の育成と持続可能なまちづくりを担う若手の育成である。このような『あがタウン子育て』構想が、今後、三者に浸透していき、三者の各々が「育てたい子供の姿」を目指した取り組みを展開していくことを目的に活動し、引いては持続可能なまちづくりに貢献していくことを願っている。

『あがタウン子育て』推進の中心は、県主小学校コミュニティ・スクール（以下CS）と県主ひとづくりネットワーク（地域学校協働本部、以下HN）である。R5年6月、「県主の子供の未来を考えるワークショップ」を開催し、その熟議では三者の「育てたい子供の姿」と「めざす大人の姿」を共有した。

今年度は、地域住民が当事者意識を高めていくための起点となる年となるとともに、三者が協働し推進する『あがタウン子育て』が進展するための大切な年にしたい。町ぐるみの子育てへの期待と推進の気運が高まっていくことを目標に、各計画を実現していきたい。

【活動の内容及び成果の詳細】

1. 活動内容及び成果（本活動によって得られた新知見、成果等）

【事業①あがタウン子育て『あがたん夢広場』芝生化の維持管理・活用計画】

昨年の取組である『子供を育てるつながりづくりの場をみんなでつくろうプロジェクト』の「芝生広場」設置計画をスタートさせたのが2025年6月21日。前年には、校舎の中庭に真砂土を入れて整地した410平米の中庭に、児童・教職員、保護者、地域住民の約50人でティフトン芝の苗約1600株を植えた。その後、ロボット芝刈り機を導入することで、芝刈りの負担が激減。見事に整備された芝生の広場になった。その広場の名前を高学年の児童が『あがたん夢広場』と命名し、その看板を設置することができた。生活科の学習で、広場にやってきた生き物（トンボ、鳥など）と戯れたり観察したりすることができるようになり、笑顔満面の子供たちの姿が輝いていた。青空給食もこの広場で行い、学校中に明るい声が響き渡るようになった。

また、保護者・地域住民の集いの広場ともなった。夏には家庭セクションの組織「みんなで遊ぼうの会」が、水遊びを計画実行し、保護者と地域住民の有志がサポートし、相互のつながりづくりが進められた。また、少年団がキャンプを開催し、飯ごう炊さんなどの貴重な体験を子供たちにプレゼントした。秋には、地域の防災会による防災訓練で活用した。この訓練には子どもの居場所づくりとして、防災頭巾や段ボールベッド、避難時の保存食づくりコーナーなどが設置され、多くの保護者・児童の参加があり、地域住民と保護者・児童のつながりづくりに、「あがたん夢広場」が役に立った。

【事業②県主ひとづくりネットワーク『子供を育てるつながりづくりの場を広げようプロジェクト』】

【事業③「子供の思い実現事業」探究学習（1～6年）の開発と実践】

【事業④『あがタウン子育て』をまち全体に広げようプロジェクト】

地域住民と保護者の当事者意識を高めるための、最も大切なプロジェクトだ。中学年児童の総合的な学習の時間を充実させるために、県主地区や井原市の探検・史跡等へのフィールドワークを展開した。また、高学年児童は、同時間に「夢応援プロジェクト」として、地域住民の各団体の思いを聞き、その支援活動を展開した。児童と地域住民の関わりの中で、学校セクションの役割を理解していただいた。そして、その上で、昨年からスタートした「児童の思い実現事業」であり、明るい未来の県主を願った児童の思いをくんだ「未来プロジェクト」の取組が、地域住民主導の行事として進展させることができた。地域コーディネーターを軸に、その実行委員会が組織され、HNの各団体に協働を呼びかけ実現した。さらに、この取組の成功が起点となり、昨年6月に開いた熟議では、子供の思いを生かした各団体の活動になるようにアイデア出しを行った。その会の中では、大人の考えた活動案に対して子供がダメ出しを行うとともに、「こんな形だったら」とか「こんなことをやりたい」という思いを提案し、大人が感心し皆が笑顔になる場面がどのグループにも存在した。その後、HNの各団体にも広がり、子供の活動を位置づけようという気運が高まってきた。例えば、2026年3月には、子供の思いを生かした「三十三観音巡り」の行事を開催。子供が考えたビンゴシートで各観音を巡ったり、子供がリーダーとなって観音巡りのいわれを説明したりした。会場には制作した「あがタウン子育て」ののぼり旗が複数あり、その取組のベースとなる「出番をつくり、ほめて認めて育てよう」が示され、会場は、子供を称揚する大人の姿とともに子供の輝く笑顔で満たされていた。こうした活動を共有することで、HNの各団体へと「子どもの思い実現事業」が広がりを見せている。こうした活動は、広報誌「あ・が・た」を県主地区全戸に配布することで、「あがタウン子育て」の周知を図っている。

このような取組の成果を、CSポートフォリオの結果からも確認することができた。「子どもへの効果」領域では、地域への愛着や地域貢献意識の高まりなどの項目の数値は95%以上が並んでおり、本年度の課題であった「地域住民と子供のつながり」の項目では、16.5%増という結果だった。質実ともに「あがタウン子育て」の効果が確認でき、CS・HNのメンバーの志気は一層高まっている。

2. 今後の活動の見通し

「10年後にも続く県主の伝統的な行事を、地区住民みんなでつくろう」。これが昨年度にスタートした「あがた未来プロジェクト」における子供の思いだ。この実現のために昨年度は学校主導で始まり、本年度はさらに有意義な地域住民主導でプロジェクトが展開された。2025年12月末、県主の地域住民や保護者、中学生、社会福祉協議会、まちづくり協議会、地元企業等の協働により、シンボルツリー・フォトスポットなどが完成し、子供たちと大人の心に火が灯った。それにより、地域住民・保護者に「あがタウン子育て」が周知され、地域ぐるみで子どもを育てる気運が高まってきた。圧巻だったことは、昨年度6年生だった児童が中学生となっても、このプロジェクトを推進するリーダーとなって活躍したことだ。この動きがロールモデルとなり、小学生がそれに続いていくように大人が支援していく。そして、高校生や大学生になっても地域に関わりをもち貢献する存在となるよう、サポートしていけたらと願っている。こうした動きや流れが、県主地区を盛り上げたり支えたりする若手を育てると、互いに思える大人の集団になれるように精進していきたい。

今後の展開については、現在広がってきた地域の各団体が、子どもの思いを生かした「あがタウン子育て」の場づくりを展開することを期待している。例えるなら、先行事例となって住民の心に響いた「あがた未来プロジェクト」を受けて、それに続くファーストペンギンとなる地域団体の取組が実際に行われている。この団体の取組から、セカンドペンギン・・・となって、地域全体に「あがタウン子育て」がさらに広がっていくことを望んでいるところである。今後も、毎年6月に拡大学校運営協議会としての熟議を継続して開催し、三者の当事者意識を高めていきたい。また、毎年2月に行っている学校運営協議会では、今後もCSポートフォリオの結果を踏まえ、次なる一手を三者で熟議し、「あがタウン子育て」が年々進化していけるように、組織的な流れを継続していきたい。

このような地域学校協働活動の取組は岡山教育事務所生涯学習課によって取り上げられ、県下の各地に紹介され、「あがタウン子育て」の知名度も少しずつ上がってきている。この取組を参考に、県下の各地に町ぐるみの子育てが広がることを願っている。

また、井原市民への啓発・実践報告を、井原市まち&ひとづくりフェスタにおいて3年連続で本年度も行った。このフェスタには、学校を核にした地域づくりをめざしている市内の地域住民・団体と、地域とともにある学校づくりを推進する管理職が集う場であり、この報告は、とても有意義な発表となっている。井原市内にさらに波及し、市内全域で

町ぐるみの子育てが充実していくことを期待している。

3. 本年度の発表、活動報告書等（今後、発表等を予定しているものも含む。）

2026.02.01 井原市まち & ひとづくりフェスタにおいてブース発表

- ・井原市教育委員会が運営し、参加者約80名参加
- ・市内全域のまちづくり協議会の代表と、地域とともにある学校づくりを推進する管理職が主に参加し、市外や岡山教育事務所生涯学習課からも参加があった。
- ・「あがた未来プロジェクト」の取組を、中学生4名とともに、地域主導の実践を発表した。